

Part.3

インフラ整備ってなに？



みなさんは「インフラ」という言葉を知っていますか？

「インフラストラクチャー(infrastructure)」の略称で、**生活や経済活動の「基盤」**という意味を持ちます。

具体的には、道路や鉄道などの交通網や、橋梁・ダムなどの構造物、水道・電気・ガスや公共施設のことを指します。

これらは、生活を営む上で必要な **「なくてはならないもの」**です。

今回は、「まち」に必要な「インフラ」の整備について、学びましょう。

突然ですが ...

今日、朝起きてから学校に着くまでの流れを思い出してください。

部屋の**電気**をつけて、**水**で顔を洗って・・・

道路の上を徒歩で、自転車です。

電車や**バス**を使う人もいますよね。

川はありますか？ **橋**で渡りますよね。

普段は意識しないけど、
さまざまなインフラを利用していますね。

例えば、もしそれらが無かったり、不足していたら？

もちろん困りますね。ありえないですよ。

けど、もちろん昔は無かったのです。

今と昔を比べてみましょう。

昔より便利に

まだ鉄道が無かった江戸時代、東京（江戸）まで徒歩で約 14日かかりました。

明治になり鉄道が開業しても約 20時間。

だんだん交通網が整備されて便利になり、
今では新幹線で約 2時間半で行けます。



昔より豊かに

右の橋は瀬戸大橋。この橋の完成は1988年ですが、完成前は船舶を乗らずに本州と四国を行き来できませんでした。



利便性はもちろん、変わったのは「**物流**」。

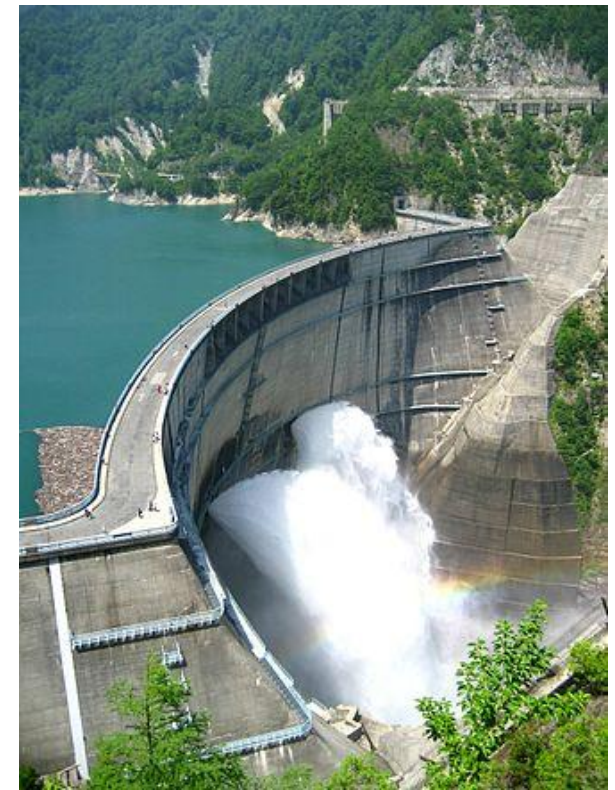
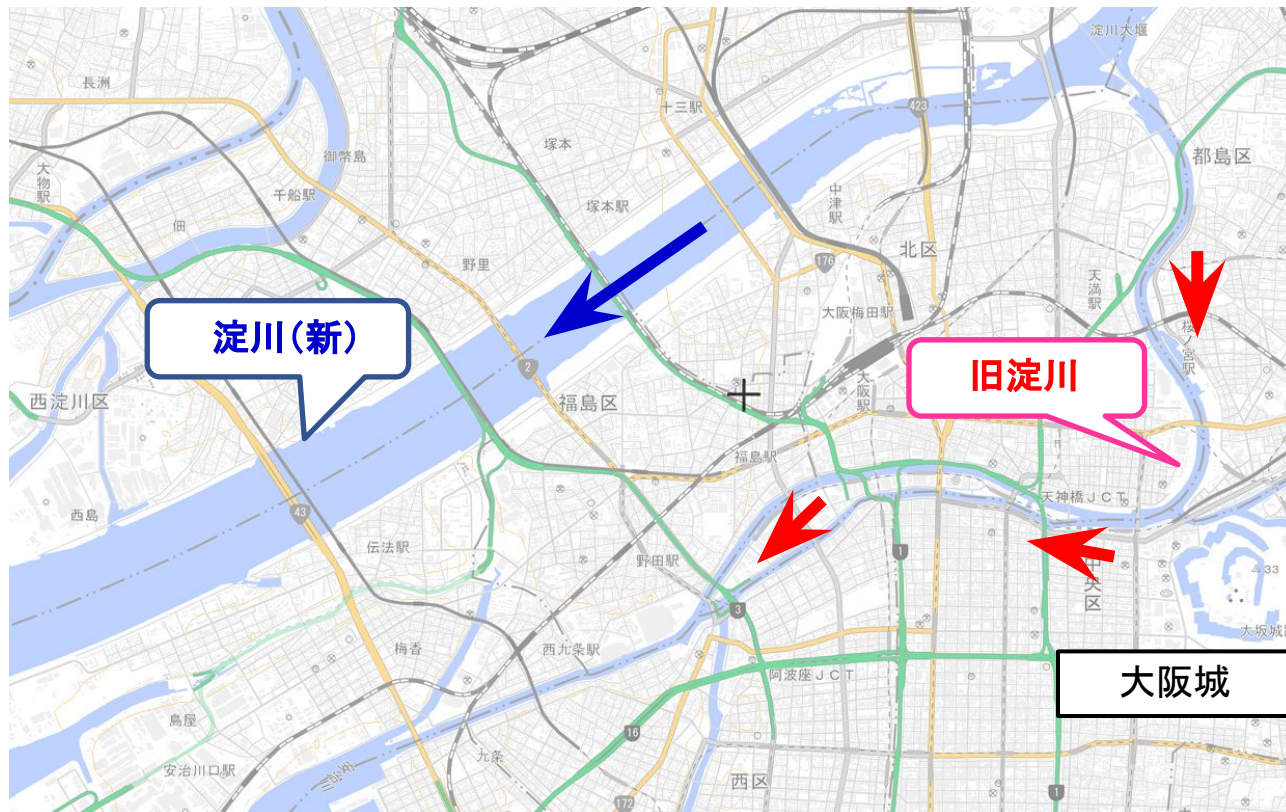
岡山は四国の玄関口として物流拠点となり、また四国の海産物や野菜が新鮮なうちに輸送され、全国シェアが増加。

これにより経済効果が増大しています。

昔より安全に

大阪にある淀川は古来よりたびたび洪水に悩まされました。そこで 1910年に完成したのが地図にある幅の広い淀川で、それまでは大阪城の近くを通るルートのみでした。

上流にはダムをつくり、流量を調整することができ、洪水などの水害を減らしました。



まとめ

昔のインフラの状況も、当時はそれが普通でした。
逆に言えば常に「今よりも良く」していったと言えます。

SDGsの目標にも「**住み続けられるまちづくりを**」とあります。

自分たちはもちろん、その次世代や 100年後の未来を

より便利に、より豊かに、より安全に

するために、

今一度これからのインフラ整備を考えてみましょう。

①道路や橋など、先ほどの例以外にはどのようなインフラがあるか、探してみましょう。

②あなたの街で整備が必要なインフラは何だと思いますか。

③それはなぜですか。②の答えに対して理由を教えてください。